

### 3. 頻発する自然災害

北海道は、近年、平成28年の連続台風や平成30年胆振東部地震などの度重なる大規模な自然災害に見舞われました。将来、気候変動等の影響による降雨増加率は全国に比べ高くなると予測されているほか、巨大地震の発生も危惧されており、特に日本海溝・千島海溝の大規模地震により大津波が発生した場合には甚大な被害が想定されています。また、北海道には気象庁の常時観測火山が9火山（十勝岳、有珠山、北海道駒ヶ岳など）あり、噴火警戒レベルが導入されています。



H28年 8月台風10号（佐幌川）



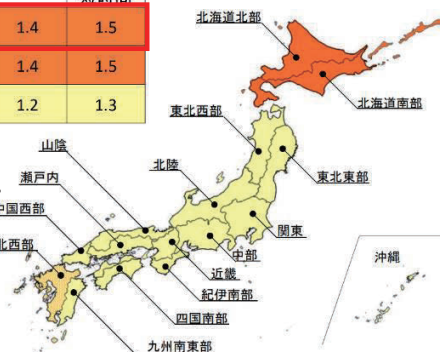
H30年 7月豪雨（ペーパン川）



H30年 9月北海道胆振東部地震（厚真町）

地域区分	2°C上昇		4°C上昇	
				短時間
北海道北部、北海道南部	1.15	1.4	1.5	
九州北西部	1.1	1.4	1.5	
その他（沖縄含む）地域	1.1	1.2	1.3	

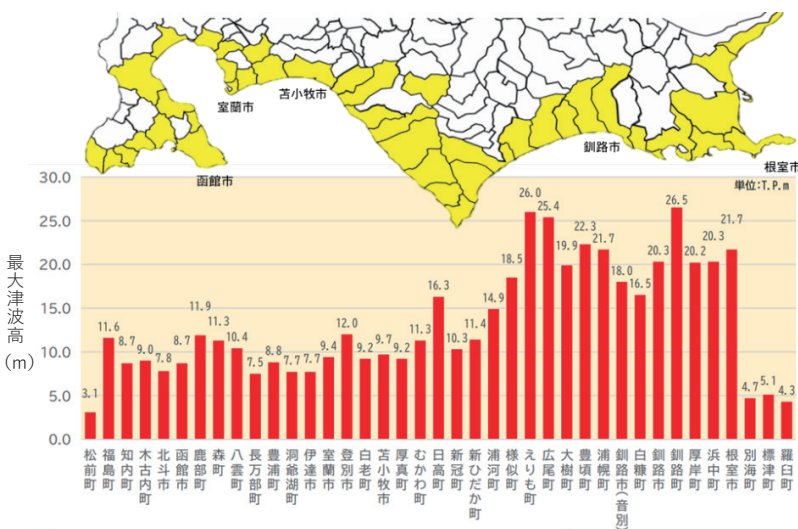
※4度上昇の降雨量変化倍率のうち、短時間とは、降雨継続時間が3時間以上12時間未満のこと。3時間未満の降雨に対しては適用できない。  
 ※雨域面積100km<sup>2</sup>以上について適用する。ただし、100km<sup>2</sup>以上未満の場合についても降雨量変化倍率が今回設定した値より大きくなる可能性があることに留意しつつ適用可能とする。  
 ※年超過確率1/200以上の規模（より高頻度）の計画に適用する。



北海道の活火山

#### 今世紀末時点での降雨量の変化倍率

【出典：気候変動を踏まえた治水計画のあり方提言(令和3年4月改訂)(国土交通省)】



#### 「最大クラスの津波」が発生した場合に想定される最大津波高

【出典：日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の被害想定について（北海道 令和4年7月）、津波浸水想定設定ワーキンググループ（北海道 令和5年2月）】

